

北口榛花 さん

応援レポート

セイコーゴールデンングランプリ陸上2017川崎
IAAFワールドチャレンジ第2戦

2017年5月21日(日)神奈川県川崎市等々力陸上競技場

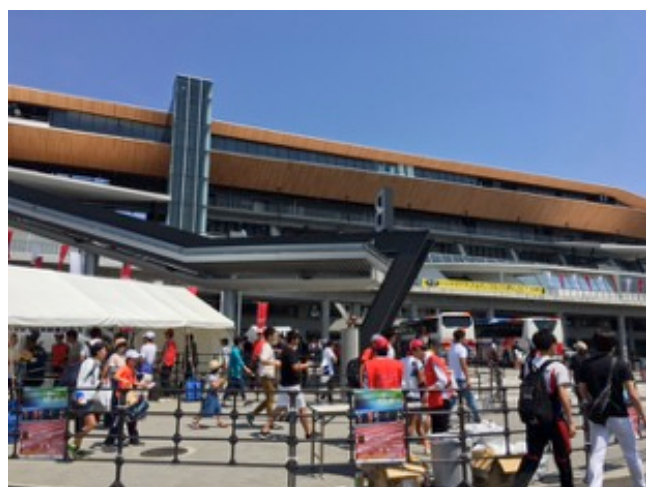
トップアスリートが集う競技会で 世界陸上標準記録に挑戦!

「ワールドチャレンジはIAAF(国際陸上競技連盟)主催のトップアスリートが集う世界最高水準の競技会である。IAAFにより規定されたクラス2以上のスタジアムで開催される。賞金総額は20万ドル以上」(大会パンフレット

より)。U20で日本記録を持つ北口さんは出場権を得て、リオ五輪選手4人を含む8名の選手と、記録を競う。

北口さんのベストは61.30m、4月29日今シーズン初戦を迎えた第51回織田幹雄記念国際大会では54.64mだった。

実は去年の故障以来リハビリしていた北口さん、結果は残念だったが、試合の中で徐々に調子が上がっていったそう。この大会では、世界陸上への派遣対象となる標準記録61.40m突破を期待したいところだ。



世界のトップアスリートと日本の有名選手が多く出場する大会に、陸上ファンが多く詰め掛けた。右はアップする北口さん



結果は59.59mで5位。
このまま調子を上げて、次へとチャレンジ！

女子やり投げ競技が13:45にスタート。選手たちが一人一人場内で紹介されて、北口さんも手を振り観客に挨拶した。この大会では、6回の投てきを行いベスト記録で順位が決まる。

北口さんは6番目の投てき。まず1投目、うーん、50mラインを越えたあたりだ。競技場

ではいろいろな種目が同時に行われているので、リアルに北口さんの記録がわからないのがもどかしい。が、北口さんの様子から思うような距離が出ていないのが伺えた。肩を落としてベンチへ戻る北口さん・・・。

2投目、低い体勢からグリーンとやりを空へ放つ、が審判

員の赤いフラッグが振られて無効だった。3回目も無効だったが、4回目は59.49m。60mまでもう少しだった。最終結果は8人中5位となり目標には届かなかったが、大会の中でも少しずつ調子が上がっているように思えた。焦ることなく練習に耐えて、次へと繋げて欲しい！



手を上げて挨拶する北口さん。
当日は真夏日となった。
緑の芝が綺麗だったが、とっても暑そう



助走して大きく体をしならせ
600gのやりを投げ放つ。
そんなに飛ぶの!?!と見てびっくりな北口さんのやり投げ。また応援に来ます！

結果

女子(W)/やり投(600g)

リザルト

審判長：木村 友一
記録主任：杉山 誠

世界記録(WR)	72m28	ハルボラ・シュボタコバ(チェコ)	2008
日本記録(NR)	63m80	海老原 有希(スズキ浜松AC)	2015
大会記録(MR)	65m66	ミカエラ・イングベールグ(フィンランド)	1996

5月21日 13:45 決 勝

決 勝

順位	試順	ナンバー	氏名	所属	1回目	2回目	3回目	3回 ベスト	トップ8 試順	4回目	5回目	6回目	記録		コメント
1	5	39	Shiying LIU 劉 詩穎	CHN 中国	63m75	63m00	66m47	66m47	8	×	×	—	66m47		MR
2	8	37	Kathryn MITCHELL キャスリン・ミッチェル	AUS オーストラリア	61m45	×	63m23	63m23	7	×	62m90	×	63m23		
3	7	58	Yuki EBIHARA 海老原 有希	JPN スズキ浜松AC	55m71	×	59m65	59m65	5	59m00	60m53	56m88	60m53		
4	3	60	Risa MIYASHITA 宮下 梨沙	JPN 大体大TC	55m61	60m03	54m64	60m03	6	×	57m53	57m15	60m03		
5	6	59	Haruka KITAGUCHI 北口 榛花	JPN 日本大学	54m46	×	×	54m46	2	59m59	55m40	×	59m59		
6	2	61	Marina SAITO 斉藤 真理菜	JPN 国士舘大学	57m72	57m61	53m86	57m72	4	56m87	57m38	56m19	57m72		
7	4	38	Hanna HATSKO-FEDUSOVA ハンナ・ハツコ・フェドソワ	UKR ウクライナ	54m84	56m38	57m27	57m27	3	54m88	56m29	×	57m27		
8	1	62	Mahiro OSA 長 麻尋	JPN 和歌山北高校	47m62	48m10	52m93	52m93	1	52m00	51m35	51m42	52m93		

女子(W)/100m

リザルト

審判長：今野 光人
記録主任：杉山 誠

世界記録(WR)	10. 49	フローレンス・G・ジョイナー(アメリカ)	1988
日本記録(NR)	11. 21	福島 千里(北海道ハテハC)	2010
大会記録(MR)	11. 03	クリスティ・ゲインズ(アメリカ)	2003

5月21日 16:15 決 勝

決 勝

順位	レーン	ナンバー	氏名(学年)	カナ	所属地	所属	RT	風: -1.0	記録	コメント
1	4	6	イェト・ラロワコリオ	Ivet LALOVA-COLLIO	BUL	ブルガリア	0. 171		11. 40	
2	8	36	タワンナ・メドーズ	Tawanna MEADOWS	USA	アメリカ	0. 203		11. 44	
3	5	19	ティアナ・バルトレッタ	Tianna BARTOLETTA	USA	アメリカ	0. 194		11. 47	
4	3	63	チャロンダ・ウィリアムズ	Charonda WILLIAMS	USA	アメリカ	0. 159		11. 49	
5	7	3	トエア・ウィシル	Toea WISIL	PNG	パプアニューギニア	0. 160		11. 58	
6	6	55	福島 千里	Chisato FUKUSHIMA	JPN	札幌陸協	0. 150		11. 64	
7	1	56	中村 水月	Mizuki NAKAMURA	JPN	大阪成蹊大学	0. 146		11. 85	
8	2	57	前山 美優	Miyu MAEYAMA	JPN	新潟医療福祉大学	0. 167		11. 96	



100mと200mの日本記録を持つ
福島さんは江副記念財団「日本
陸上競技連盟/女子短距離有望
選手の海外遠征および合宿への
助成」事業対象選手のうちの
一人。今回は記録更新にならず
残念な表情を見せていた

大会パンフレットより



世界記録	World Record
72m28	バルボラ・シュコタコバ (チェコ) 2008
71m26	SPOTAROWA BARBORA (CZE) 2008
日本記録	Japanese Record
63m80	海老原 有希 (スズ中浜松AC) 2015
63m80	EBIHARA YUKI 2015
アジア記録	Asian Record
61m38	北口 穂花 (日本大) 2016
61m38	KITAUCHI HOSOKA 2016
大会記録	Meet Record
65m00	ミカエラ・イングベルグ (フィンランド) 1996
65m00	MICHAELA INGBERG (FIN) 1996

出場選手名	氏名 NAME	所属国・所属 Country/Belonging	主な戦績 Major Records
	生年月日: Birthday	2016-2017シーズンベスト: BB	記録: Record
	海老原 有希 Yuki EBIWARA 28/10/1995	スズ中浜松AC JPN	16日本選手権2位 日本記録保持者 63.80 62.13 日本記録はゴールデンランプリ
	北口 穂花 Hosoka KITAUCHI 16/03/1998	日本大学 JPN	日本陸連ダイヤモンドアスリート 15世界ユース金 61.38 61.38 学生記録はゴールデンランプリ
	宮下 梨沙 Risa MIYASHITA 25/04/1994	大塚大TC JPN	16日本選手権優勝 15アジア選手権3位 60.86 60.86 昨年、自身2度目の60m決勝
	斉藤 真理菜 Marina SAITO 15/10/1995	国士館大学 JPN	16日本選手権6位 16全日本インカレ優勝 60.01 60.01 今年60mの大会優勝
	長 麻尋 Mahiro OSA 28/11/1999	和歌山成高等学校 JPN	日本陸連ダイヤモンドアスリート 16全国高校総体優勝 56.48 54.88 高校最高記録保持者
	キャスリン・ミッチェル Kathryn MITCHELL 10/03/1982	オーストラリア AUS	16オリンピック6位 12オリンピック9位 66.10 64.37 実績でリードする34歳
	ハンナ・ハツコ・フェドゥソワ Hanna HATSKO-FEDUSOVA 03/10/1990	ウクライナ UKR	16オリンピック出場 15世界選手権出場 67.29 62.02 自己記録では参加選手中一番
	劉 詩穎 Shiyng LIU 24/09/1993	中国 CHN	16オリンピック出場 15アジア選手権優勝 65.64 65.64 今季の記録は世界2位

ミッチェル、フェドゥソワ、劉詩穎、そして海老原有希と、リオ五輪に出場した4人の争いとなる。

国際大会の実績から判断するとミッチェルが本命だ。今大会のリオ五輪出場4選手中ただ1人、6位に入賞した。自己記録は14年に出したものだが、昨シーズンは64m以上を4試合でマークするなど安定度は過去最高だった。今年は2月の地元2試合で50m台に終わったことが気になるが、イベント色の強い大会だったことも事実。ワールドチャレンジミーティングという本格的な戦いの舞台では、60mを大きく超えてくるだろう。

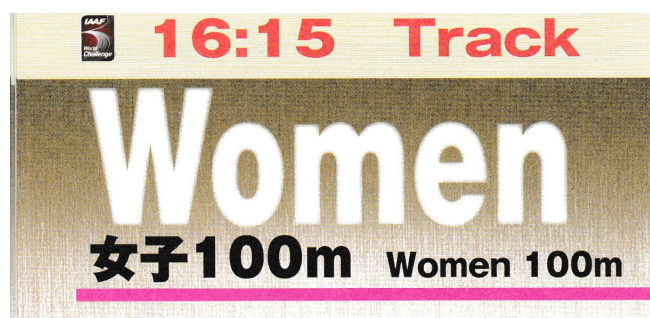
自己記録ではフェドゥソワの67m29が参加選手中ナンバーワンだが、セカンド記録は63m10まで下がる。過去4回出場している五輪も世界陸上でも決勝進出はない。今大会に優勝し、ファイナリストへのステップとしたい。

ミッチェルの地元戦になりそうなのは劉だろう。前述の廣州の大会でミッチェルを破り、3月には65m47とシーズン半々に自己記録まで17cmと迫った。過去3年間のシーズンベストも3〜4月。エンジンが早くかかるタイプであることは確かだが、今季の強さはさらに一段階上がっている。

海老原は今大会を、五輪も世界陸上の初入賞に向け外せない大会と位置づけている。一昨年は63m80の個人日本記録を挙げ、昨年は62m13とリオ五輪準優勝記録を破った。それでも2位は得意もとっているが優勝がない。「そういう経験が日本でもできる貴重な大会ですが、そこで勝たないと世界をいつまで経っても近づいてこない」と、意を決して臨む。

また、やり投げは日本のレベルが最も高い女子投てき種目。昨年からは今年にかけて、海老原以外にも3人の選手が60mを超え、今大会に顔を揃える。最年長の宮下梨沙が「最低でも61m40の世界陸上標準記録を」と意気込んだが、3人に共通の思いだろう。

大会パンフレットより



世界記録 WORLD RECORD	
10秒49	フローレンス・G・ジョイナー (アメリカ) 1988
10'49	JOYNER.FLORENCE.G (USA) 1988
日本記録 NATIONAL RECORD	
11秒21	福島 千里 (北海道ハイテクAC) 2010
11'21	FUKUSHIMA.CHISATO 2010
U20 日本記録 U20 NATIONAL RECORD	
11秒43	土井 杏南 (埼玉栄高) 2012
11'43	DOLANNA 2012
大会記録 MEET RECORD	
11秒03	クリスティ・ゲインズ (アメリカ) 2003
11'03	GAINES.CHRISTE (USA) 2003

出場予定選手	氏名 NAME 生年月日 Birth day	国名・所属 Country・Belonging 自己ベスト PB 2016-2017シーズンベスト SB	主な戦績 Major Records 短評 In brief
	福島 千里 Chisato FUKUSHIMA 27/06/1998	札幌陸協 JPN 11.21 11.38	16日本選手権9連覇、15アジア選手権優勝 100m・200m日本記録保持者 日本の短距離女王
	中村 水月 Mizuki NAKAMURA 22/03/1996	大阪成蹊大学 JPN 11.57 11.57	17関西インカレ優勝 16学生個人選手権優勝 直前に関西学生新
	前山 美優 Miyu MAEYAMA 12/02/1996	新潟医療福祉大学 JPN 11.65 11.65	16日本選手権4位 昨年200mと2種目自己新
	ティアナ・バルトレッタ Tianna BARTOLETTA 30/08/1985	アメリカ USA 10.78 10.78	16オリンピック走幅跳金、4×100mR金 15世界選手権金 走り幅跳びと二刀流
	チャロンダ・ウィリアムズ Charonda WILLIAMS 27/03/1987	アメリカ USA 11.07 11.28	13世界選手権200m6位 4月に追い風参考だが11秒0台と好調
	イベト・ラロワコリオ Ivet LALOVA-COLLIO 18/05/1984	ブルガリア BUL 10.77 11.11	16オリンピック200m8位、100m準決勝進出 15世界選手権200m7位 リオ五輪は200m入賞の大ベテラン
	トエア・ウィシル Toea WISIL 01/01/1988	バプアニューギニア PNG 11.29 11.29	16オリンピック出場 100mから400mまでこなすマルチスプリンター
	タワナ・メドーズ Tawanna MEADOWS 04/08/1986	アメリカ USA 11.11 11.31	14ワールドリレーズ4×200mR優勝 17追風参考10秒72 今季、追い風参考で10秒72!

今年の女子最速レースは3つの視点で楽しむことができる。

1つめは“世界の走り”を目撃できること。今大会3連覇中のバルトレッタは、走り幅跳びの北京世界陸上&リオ五輪金メダリストだが、100mでもロンドン五輪4位の実績を持つ。昨年のリオ五輪は準決勝で敗退したとはいえ、メダル獲得を本気で狙っていた。脚を擦るような動きで接地していく独特のスタート動作から中盤の加速は、間違いなく世界トップクラスのスピードだ。

2つめは日本の女王、福島千里の走りを見られること。特にスタートから序盤のスピードは、世界のトップに引けを取らない。バルトレッタに勝つのは難しいが、中盤まではリードできるのではないかと。急成長中のウィシルや、白人の強豪ラロワコリオには勝負を挑みたい。

3つめの視点は“ポスト福島”だ。五輪3大会に連続出場した福島が、リオ五輪後に色々考えた結果、プロ選手という形で競技続行を決断した。福島が頑張っている間に、後継者を育成するのが日本女子短距離界の急務となっている。

今大会出場の中村水月は高校時代に世界ユース(U18世界陸上)に出場した選手だが、その後の成長は緩やかだった。今年に入って福島不在の織田記念決勝で日本人1位、関西インカレで11秒57の関西学生新とトップレベルに進出してきた。

前山美優は織田記念で日本人3位。大学3年時の昨年、11秒6台の自己新を連発して存在をアピールした。学生2人が福島と、どのくらいの差でフィニッシュするかが注目される。